読売歌壇

小池　光　選

どんぶらこと流れてきたる桃のよな曽孫を膝に抱けるしあわせ　鹿児島市　地原　陽子

【評】孫でなく曽孫である。どんぶらこの桃のような曽孫を抱く。しあわせというものの究極のすがただろう。だれもがこのしあわせを手にするわけではない。

しょんぼりと歩く私についてきて部屋まで入るつもりの満月　札幌市　橘　晃弘

【評】今日も一日よく働いた。いやなこともあった。しょんぼり帰るわたしを、煌々たる満月が照らす。部屋の中まで入ってくるつもりか、というところがおもしろい。

大輪の花火の中にB29の爆音を聴く吾等の世代　東久留米市　郷間　浩明

【評】全国各地で花火大会がさかん。花火の音に戦中の記憶が重なる。一生消えない爆音を思い出す世代。そういう人々もいるのだ。

障害児手帳申請すすめられ決心までのながいながい夜　三田市　梅本ひとみ

鈴生りの見本のごとくみのりたるはんこ屋さんの今年のキウイ　仙台市　庄司　千鶴

ぐっしょりと背中の汗を吸い込みしシャツが脱げない貼り付きしまま　下野市　川中子とよ子

クランク棒用いて車を起動した昭和四十年小雪舞う朝　角田市　豊岡　浩一

英文で読みしなつかし「怪談」を七十年経て和文にてよむ　小美玉市　松山　光

絵日記をサボりて偽造せし夏の八十路となりても苦い思ひ出　山形県　伊藤　啓泉

吾が祖父は娘六人孫の数十五人なり雲に住みをり　村上市　鈴木　正芳

栗木　京子　選

円安で庶民に遠き江戸の鮨値段上げてもふゆる異国語　吹田市　前田　尚夫

【評】金額に糸目をつけず鮨を味わう外国人観光客もいる。江戸前の鮨が広く愛されるのはうれしいが、その影響で日本人に鮨は遠い存在になってゆく。苦渋の心境が伝わる歌。

新幹線車内販売終了のニュースは寂し「ごっこ」も出来ない　町田市　永井　悦子

【評】東海道新幹線車内のワゴン販売が終了することになった。子どもたちが真似をして遊んだ車内販売。弁当や飲み物を買うのが旅の楽しみだったのに。結句が巧みである。

宇宙より遠き甲子園の夢叶え月の砂のごと土持ち帰る　静岡市　榧守　美鶴

【評】高校球児にとって、甲子園出場は宇宙旅行よりも叶えたい夢であろう。甲子園球場の土と月面の砂との対比が印象深い。

次の日に期待もたせる朝ドラのように吾亦紅つぼみ少々　水戸市　大野太加し

母ざるが子ざる背にして屋根はしる庭の胡瓜を一本くはへて　神奈川県　角田　兼勝

ChatGPTの間違い正すとお礼の言葉が返り素直な生徒を持った気分だ　東京都　青山　繁

手紙書き切手を探すその間に手紙を失くし老いを感じる　羽島市　谷　布紗子

ベゴニアの花の上にて蟬が寝るほんに綺麗な逝き方である　京都市　五十嵐幸助

スカートを車輪に絡め倒れしを月光仮面の君馳せくるる　大和市　高橋　敦子

伐採の目印となる赤い紐まかれた木々が夏の風受く　神戸市　饗庭　秀子

俵　万智　選

譜面から音楽を生むチェリストのこころもて読むあなたの手紙　春日部市　宮代　康志

【評】譜面も手紙も、それを理解しなければ、紙に付されたシミに過ぎない。けれど意味が伝われば、妙なる音楽を生むものともなる。言葉の不思議と恋心のハーモニーが美しい。

ゆく夏のボーイソプラノ吊り下がる風鈴たちの喉の透明　奈良市　toron*

【評】風鈴の高音とボーイソプラノ。音だけでなく喉ぼとけの形や、ボーイソプラノが期間限定であることまでもが重ね合わされて、夏の透明感と名残惜しさが伝わってくる。

三日後の新幹線をキャンセルし留まるという切符に替える　東京都　武藤　義哉

【評】乗車変更ではないが「切符」と表現したところに思いが滲む。新たな目的地が見つかったということだろう。

崩すからおいしいパフェが完全な姿のままのインスタグラム　八王子市　土屋ひろ菜

だるまさんがころんだような初恋は忘れたいのにゆっくり起きる　東京都　青木　公正

イケメンのエノコログサを連れ帰り窓辺に揺らし話をしよう　奈良県　吉野ヨシノ

東京に暮らす孫達来たる夜は渋谷のごときざわめきとなる　匹瑳市　椎名　昭雄

両親とばったり会ったラブホテル僕の彼女を紹介します　雲南市　熱田　一俊

傾いでる駐輪場の自転車の首を整え職場へ向かう　高島市　宮園佳代美

江戸川の花火の間の鉄橋を貨車淡々と渡ってゆけり　柏市　塩田　淳文

黒瀬　珂瀾　選

三十九度超ゆるいちにち終はらむと湯ぶねにあればこほろぎの声　枚方市　鍵山奈美江

【評】今年の夏の暑さは格別だ。日も暮れてようやっと猛暑日をやり過ごしたという安らぎを、こおろぎの小さな声に感じ取る。初句の数字が効果的です。秋が待ち遠しい。

苦みなどもとから無かったかのごとく抹茶フラペチーノを飲み干す　東京都　かなもり涼華

【評】単なる抹茶フラペチーノの読後感だけではなく、背景には、何か人生上の苦悩を振り切ろうとする思いがあるのではと思いました。洒脱でいて微かな重みを感じる歌です。

ばあちゃんは僕が守ると登山道はりきる孫のうしろに続く　宝塚市　坪井　育世

【評】元気なお孫さんとのハイキングでしょうか。頼もしいですね。ちょっと苦笑しつつも孫に先導を任せる、朗らかな祖母の心。

大阪へスイカ送れば横浜にゴーヤが届く絵手紙仲間　横浜市　杉本　恭子

幼き日に母を亡くしたじいちゃんの遺したスケッチ海の絵ばかり　前橋市　高橋　香

くづほれし薔薇の園をそぞろ行きあといくばくの吾がいのちぞも　東京都　小出風沙子

認知症すすむ老母がいっしんに見入る台風進路予想図　北上市　佐々木清志

卓上の物一列に並べおりありし日の父の一人飲みの癖　オランダ　宮沢　洋子

ダウンロードあと一秒が十秒に跳ねたりどこへ行ったの時間　奈良県　若林　明良

教科書に鮫を一匹泳がせて言葉を喰わすように潰した　ふじみ野市　雨雨雨汰

◇投稿規定◇　はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名（ふりがな）、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、日本橋郵便局留、読売歌（俳）壇、○○先生（希望選者名）係または読売新聞オンラインから　◇次回は18日（月）に掲載　右の影絵はききょう